SumikaGreen

ヤシマ
スミパイン乳剤

住化グリーン株式会社

特長

ヤシマスミパイン乳剤は、有効成分と乳化剤の 2 者成分で製造されている薬剤です。従来の乳剤は、難水溶性の有効成分を親水和性にするために、有効成分十有機溶剤十乳化剤の 3 者成分が製造上必要でした。しかし、乳化剤（界面活性剤）の進歩により、有効成分と乳化剤の 2 者で有機溶剤を使用しなくても良質の乳剤を製造することが可能になりました。この技術を応用してヤシマスミパイン乳剤は作られています。

ヤシマスミパイン乳剤は一つの薬剤で、松くい虫防除（ヘリコプター散布、無人ヘリコプター散布、地上散布などの予防、枯損木の伐倒木駆除など）や、森林害虫、緑化樹の害虫駆除の専用薬剤として広く使用できます。

林野庁補助対象薬剤

製品名	農薬登録番号	人畜毒性	魚介類毒性	農薬の種類 （有効成分%）	物理的化学的性状
ヤシマ スミパイン乳剤	15044	普通物 （毒劇物に該当しないものを指していう通称）	B 類相当	MEP 乳剤 （80%）	黄褐色可乳化油状液体 ※水に入れてかき混ぜると 良好な乳剤となります。

適用範囲

1. 松くい虫防除

予防：ヘリコプター散布・ガンノズルヘリコプター散布・無人ヘリコプター散布・地上散布
駆除：伐倒・薬剤散布
秋・春期被害木ガンノズルヘリコプター散布

2. スギカミキリの防除

生立木の予防・被害木の駆除

3. カミキリムシ類、ゾウムシ類、キクイムシ類の防除

一般樹木の生立木等
一般樹木の倒木・伐倒木等
予防：伐倒後防虫薬剤散布
駆除：樹皮下、材内生息期

4. まつの生立木、衰弱木、枯損木のキクイムシ類、ゾウムシ類

5. スギザイノタマバエ防除

生立木の予防・被害木の駆除

6. マツカレハ、ハバチ類、マイマイガ、ドクガ類

ミスジツマキリエダシャク、その他のエダシャク類、松のしんくい虫、マツバノタマバエ、スギタマバエ等の防除、ヤマダカレハの防除

7. しいたけのほだ木、笠木等の防虫

ハラアカコブカミキリ等のカミキリムシ類

8. 松類の風倒木、衰弱木等キクイムシ類防除。予防・駆除

9. さくらのコスカシバ

10. ヒノキカワモグリガの防除

規格：10ℓ缶、他規格あり



一般散布スプレー



ガンノズル林分散布



スパウターによる地上散布



鉄砲噴口による地上散布

マツノマダラカミキリ成虫の脱出消長

適期に、かけもれのないように予防散布を実施することが、効果を高める上にもっとも重要です。各地で調査したマツノマダラカミキリ成虫の脱出消長の一部を掲げました。(同一地域でもその年の気温条件によって脱出消長に変動もありますので、都府県関係等指導機関におたずね下さい)。散布時期を検討される参考資料にして下さい。

場所	脱出初日	10% 脱出	50% 脱出	90% 脱出	100% 脱出	調査年
府県（市町村）	月日	月日	月日	月日	月日	2年以上：平均脱出日
岩手（一関市）[1]	7.2	—	7.22	—	8.19	'79 ~ 83,86,87
宮城（大衡村）[1]	6.23	—	7.16	—	8.15	1985 ~ 90
秋田（雄和町）[1]	7.3	—	7.13	—	7.28	1984 ~ 88
山形（山形市）[1]	6.20	—	6.30	—	7.20	1988,89,91
福島（郡山市）[1]	6.20	—	7.11	—	8.6	1989 ~ 91
茨城（那珂町）[2]	6.14	6.23	7.4	7.16	8.5	1973 ~ 82
栃木（宇都宮市）[7]	6.8	6.23	7.5	7.19	8.8	1987 ~ 91
群馬（榛東村）[7]	6.1	6.11	7.5	7.19	8.8	1980 ~ 91
千葉（山武町）[3]	6.6[9]	6.17	7.10	7.26	8.7[14]	1974 ~ 88
千葉（一宮町）[3]	5.31	6.12	6.26	7.11	8.1	1975
新潟（朝日村）[4]	6.25[9]	6.26	7.9	7.22	8.5	1980 ~ 82,86
石川（鶴来町）[7]	5.31	6.14	6.25	7.13	8.12	1981 ~ 83
福井（丸岡町）[7]	6.5	—	6.18	—	7.13	1979 ~ 91
静岡（浜松市）[5]	5.27	6.4	6.13	6.26	7.9	1983 ~ 92
岐阜（岐阜市）[7]	6.5	6.12	6.25	7.7	8.1	1988
愛知（豊橋市）	6.4	6.10	6.22	7.3	7.15	1976
三重（白山町）	6.9	6.11	6.19	6.27	7.5	1987 ~ 91
京都（八木町）[7]	6.14[10]	6.22[11]	6.27	7.31[12]	7.12[13]	'75 ~ 80,82 ~ 89
兵庫（山崎町）[7]	6.6	6.10	7.4	6.16	8.1	1985 ~ 91
奈良（橿原市）	6.1	6.6	6.15	6.27	7.11	1976
和歌山（上富田町）[7]	5.17	6.7	6.26	7.9	7.27	1980 ~ 90
鳥取（河原町）[6]	5.23	6.2[10]	6.16	7.2[13]	7.24	1974 ~ 84
島根（宍道町）[7]	6.4	6.12	6.20	7.2	7.11	1981 ~ 90
岡山（和気町）[7]	6.14	6.26	7.11	7.23	8.7	1991
広島（三次市）[7]	6.9	6.16[10]	7.4	7.19[13]	7.29	1982 ~ 90
山口（宇部市）	5.25	6.14	6.26	7.8	7.29	1976
香川（仲南町）[7]	6.10	6.23	7.8	7.17	7.31	1988 ~ 92
愛媛（伊予三島市）	6.5	6.21	7.1	7.10	7.20	1976
高知（春野町）	5.15	5.29	6.17	7.2	7.31	1976
福岡（福岡市）[7]	—	6.6[10]	6.20	—	7.25	1985 ~ 91
長崎（島原市）	5.15	6.7	7.5	7.19	8.8	1976
宮崎（日向市）	6.1	6.2	6.12	6.28	7.19	1976
鹿児島（喜入町）	5.14	5.24	6.5	6.19	7.17	1976

註●(出典)[1]森林総研東北支所槇原先生資料，[2]岸洋一「マツ材線虫ー松くい虫精説」1988,[3]松原功「千葉林試研報」1989,[4]布川耕一・山崎秀一「新潟林試研報」1988,[5]静岡県森林整備課資料1992,[6]井上牧雄「鳥取林試研報」1984,[7]府県林業試験研究指導機関調，[8]ヤシマ産業(株)研1975，その他は山根明臣博士「農水協昭和54年一般研修資料
●[9]・1%，[10]・5%，[12]・75%，[13]・95%，[14]・99%の脱出日

ヤシマスミパイン乳剤農林水産省農薬登録（1）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期	使用方法
まつ（生立木）	〔松くい虫・予防〕 マツノマダラカミキリ （成虫）	ヘリコプター 液剤・カーテン散布 15～45	3～6ℓ （カーテン6ℓ）	成虫の発生直前より 発生最盛期直前	空中散布 （10アール当り投下薬量が本剤200㎖。ただし微害林では130～200㎖とする）
		ヘリコプター・液少散布 4～6	0.8ℓ		
		ヘリコプター ガンノズル・林分散布 60～180	12～24ℓ		
		18	3ℓ		無人ヘリコプターによる散布
		地上散布 150～200	3ℓ／本 （樹高10m）	成虫の発生初期及び 発生最盛期直前	散布
		ヘリコプター・ガンノズル 単木・1時期散布 80～160	3ℓ／本 （樹高10m）	成虫の発生初期	空中散布 （単木処理）
		ヘリコプター・ガンノズル 単木・2時期散布 150～200	3ℓ／本 （樹高10m）	成虫の発生初期及び 発生最盛期直前	
まつ（枯損立木）	〔松くい虫・駆除〕 マツノマダラカミキリ （幼虫）	ヘリコプター・ガンノズル 枯損立木・単木散布 80	5ℓ／本 （樹高10m）	幼虫期 （秋期）	空中散布 （単木処理）
	〔松くい虫・駆除〕 マツノマダラカミキリ （材内生息幼虫）		5～10ℓ／本 （樹高10m）	成虫の発生 （春期）	
樹木類 （倒木・伐倒木）	スギカミキリ	100～300	400～600㎖／㎥	〔駆除〕 樹皮下および 材内生息期 〔防虫〕 伐倒・風倒直後	散布
	カミキリムシ類 （スギカミキリを除く） ゾウムシ類 キクイムシ類	松くい虫伐倒・駆除他 50～150	300～600㎖／㎥		
	スギザイノタマバエ	50～100		樹皮下および 材内生息	散布
樹木類 （林木）	スギカミキリ	生立木予防 50～100	400～600㎖／㎥	成虫の発生初期 又は直前	樹幹散布
	スギザイノタマバエ	生立木予防 100～200	600㎖／㎥		
	カミキリムシ類 （スギカミキリを除く） ゾウムシ類 キクイムシ類	生立木予防 50～150	300～600㎖／㎥		
	スギタマバエ	250～500	―	虫えい形成期	散布
	マイマイガ・ドクガ類	地上散布 1,000～1,500	―	若齢・中齢 幼虫期	散布
		ヘリコプター・液剤散布 50～100	3～6ℓ		空中散布 （10アール当り投下薬量は本剤60㎖とする）
		ヘリコプター・液少散布 8	0.8ℓ	幼虫期	空中散布
	ヤマダカレハ	地上散布 1,000	―	幼虫期	散布

ヤシマスミパイン乳剤農林水産省農薬登録（2）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期	使用方法
まつ	マツカレハ〔松毛虫〕	ヘリコプター・液剤散布 100	6ℓ	幼虫期	空中散布
		ヘリコプター・液少散布 8	0.8ℓ		
		地上散布 1,000～1,500	—	—	散布
松類	ハバチ類	ヘリコプター・液剤散布 100～200	3～6ℓ	幼虫期	空中散布（10アール当りの投下薬量は本剤30～60mℓとする）
		ヘリコプター・液少散布 16	0.8ℓ		空中散布
		地上散布 1,500～2,000	—		散布
松類	マツバノタマバエ	250	—	成虫の発生最盛期	散布
	シンクイムシ類	250～500		幼虫期	
松類	キクイムシ類	ヘリコプター・ガンノズル単木・加害予防散布 40	5ℓ／本（樹高10m）	成虫の発生初期	空中散布（単木処理）
松類（風倒木）		ヘリコプター・微量散布 原液	0.75ℓ	成虫の発生直前	空中散布
まつ（衰弱木・枯損立木）	キクイムシ類 ゾウムシ類	80～120	—	—	散布
松類 樹木類（森林）	ミスジツマキリエダジャク エダジャク類	ヘリコプター・液少散布 8	0.8ℓ	幼虫期	空中散布（10アール当りの投下薬量は本剤100mℓとする。）
		ヘリコプター・液剤散布 30	3ℓ		
		地上散布 1,000～1,500	—		散布
松類	ハマキガ類	ヘリコプター・液剤散布 50～100	6ℓ	幼虫期	空中散布
		地上散布 1,000～1,500	—		散布
さくら	コスカシバ	100～300	—	成虫発生期	散布
ほだ木	〔しいたけ〕カミキリムシ類	350	—	成虫発生初期及び産卵期（ほだ木の伏せ込み期）	散布 ほだ木及びほだ木用笠木を同時に防除する場合は希釈倍数を350倍とする
ほだ木用笠木		40	—		
樹木類（森林）	ヒノキカワモグリガ	200～300	—	成虫の発生直前～発生最盛期直前（6月～7月）	樹冠及び樹幹に散布
		30	6ℓ		空中散布

（注）本剤及びMEPを含む農薬の総使用回数は6回以内です。但しほだ木、ほだ木用笠木は2回以内です。

大切な日本の松を守ろう

松くい虫総合防除のための住化グリーン森林用薬剤一覧

[予防薬剤]　　（　　）内は農薬の種類

ヤシマスミパイン乳剤（MEP 乳剤）	ヘリコプター散布、無人ヘリコプター散布、地上散布
スミパイン MC（MEP マイクロカプセル剤）	ヘリコプター散布、無人ヘリコプター散布、地上散布
モリエートマイクロカプセル（クロチアニジンマイクロカプセル剤）	無人ヘリコプター散布、地上散布
モリエート SC（クロチアニジン水和剤）	無人ヘリコプター散布、地上散布
グリンガード·NEO（酒石酸モランテル液剤）	樹幹注入剤
グリンガード·エイト（酒石酸モランテル液剤）	樹幹注入剤
グリンガード（酒石酸モランテル液剤）	樹幹注入剤
メガトップ液剤（ネマデクチン液剤）	樹幹注入剤
マッケンジー（塩酸レバミゾール液剤）	樹幹注入剤

[駆除薬剤]

●伐倒駆除·散布剤

ヤシマスミパイン乳剤（MEP 乳剤）	水で 80 倍に希釈し樹皮の表面に 600 mℓ／㎡散布、秋·春期被害木ガンノズルヘリコプター散布
ヤシマバークサイドオイル（MEP 油剤）	灯油で 40 ～ 60 倍に希釈し、樹皮の表面に 400 ～ 600 mℓ／㎡散布（特に冬期駆除）
ヤシマバークサイド F（MEP 油剤）	そのまま（希釈せず）樹皮の表面に 400 ～ 600 mℓ／㎡散布（特に冬期駆除）

●伐倒駆除·くん蒸剤

ヤシマNCS（カーバム剤）紙パック	（軽量、環境にやさしく容器処理簡便）被覆内容積 1 ㎥あたり　1 ℓ：7 日間以上　0.5 ℓ：14 日間以上

●松くい虫くん蒸生分解性シート

くん蒸ヤシマ与作シート（グリーンプラ登録番号 942）	4m×30m

⚠ 使用上の注意

1. 使用前にはラベルをよく読んで下さい。2. ラベルの記載以外には使用しないで下さい。3. 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。
4. 使用後の空袋、空容器は圃場や使用現場などに放置せず危険のない場所で処理して下さい。

住化グリーン株式会社
SumikaGreen

本　　社　〒104-0032　東京都中央区八丁堀 4 丁目 5 番 4 号
TEL. 03-3523-8070　FAX. 03-3523-8071
下館工場　〒308-0007　茨 城 県 筑 西 市 折 本 5 4 0
TEL. 0296-22-5101　FAX. 0296-22-7101

●取扱い

2011 年 12 月作成　5,000TS㊞